

高知労働局長が「ベストプラクティス企業」 を訪問しました（土佐鶴酒造株式会社）

高知労働局（局長 古田 宏昌）では、11月の「過重労働解消キャンペーン」の取組の一環として、長時間労働の削減を始めとする「働き方改革」に資する取組を積極的に実践している企業（**ベストプラクティス企業**）を局長が訪問し、取組内容について意見交換するとともに、その様子を広く報道機関を通じて紹介しました。その取組内容をご紹介します。

概要

訪問日時 平成30年11月12日（月） 14:00～
訪問企業 土佐鶴酒造株式会社 北大野工場（安芸郡安田町）



【企業データ】

- ・創業 1773年
- ・事業内容 酒類の製造・販売
- ・代表者 代表取締役社長 廣松 慶久
- ・従業員数 105名（訪問日現在）

取組内容

1 業務改善、効率化

「手づくり」工程は守りつつ、機械化できる工程は少しずつ機械化
機械化の例

- ・ 酒瓶にラベルを貼る作業
 - ・ 醪（もろみ）の温度調節
- 作業工程の記録シートを作成し、「見える化」



【酒瓶にラベルを貼る機械】

2 業務の平準化、多能工化

業務改善、効率化で人手が掛からなくなっても、従業員は減らさず、その分は業務を再配分するとともに、品質向上、商品開発等新たなチャレンジに活用
「この仕事はこの人にしかできない」という状況は極力つからない

3 従業員を大切に、女性を大切に

労働災害を防止するため、労働災害状況の共有
結婚・出産後に転勤や配置転換を行わず、女性の負担を軽減
女性だけのチームで、女性ならではの目線での商品開発

成果

機械化を進める中においても、品質の維持・向上がなされ、「全国新酒鑑評会」において全国最多45回の金賞受賞
出産後の職場復帰率100%、残業時間は平均で月10時間以内

担当役員との意見交換

1 業務改善、効率化

- ・ 日本酒は、もともと人の手で造るのが基本。その中において、手作業とのバランスを保ちつつ、機械化できるところは少しずつ機械化を図っている。
- ・ 例えば、以前は酒瓶にラベルを貼る作業を手で行ってきたが、非常に手間が掛かるということで、試行錯誤を繰り返しながら機械化していった。
- ・ また、醪（もろみ）の温度調整も昔は氷を運んでやっており手間がかかったが、機械の方が確実性があり、効率化もできるということで、機械化に踏み切った。
- ・ 機械化だけでなく、各作業工程の記録シートを作成し、どの作業がどこまで進んでいるか、「見える化」し、効率化を図っている。



【担当役員と意見交換を行う古田局長（左）】



【杜氏から酒造工程について説明を受ける古田局長（左）】

2 業務の平準化、多能工化

- ・ 業務改善、効率化を進め、以前より人手が掛からなくなっているが、その分従業員を減らすことはしていない。
- ・ 人手が掛からなくなった分は、繁忙であった業務を他のセクションに振り分け平準化するとともに、手作業の質を向上させたり、品質向上や商品開発等、新たなチャレンジに活用している。
- ・ 「この仕事はこの人にしかできない」という状況は極力つくらず、一つの仕事を複数の従業員ができるようにしている。また、特定の部門が忙しいときには、他の部門の従業員も手伝って当たり前という雰囲気がある。

3 従業員を大切に、女性を大切に

- ・ 労働災害を防止するため、労働災害が発生した際には、全社に発生状況を横展開し、再発防止に努めている。
- ・ 女性の結婚・出産時には、仕事での負担を極力かけないように、転勤や配置転換は行わないことにしている。そのかいあって、出産後の女性の職場復帰率は100%である。
- ・ 昔、酒作りは男性の仕事という風土があったが、現在は女性目線を大切にするため、女性だけのチームを編成し、商品開発を行っており、女性のモチベーションアップにつながっている。

従業員との懇談



【働き方改革について従業員と懇談する古田局長（左）】

- ・ 出産の際には、職場の方々がいろいろと配慮してくださり、産後休暇も何の気兼ねもなく取ることができた。また、子供が病気になったときなども、職場の理解があり、休暇を取りやすい。
- ・ 職場は風通しがよく、従業員間の仲がよい。仕事を手伝い合うので、一人一人が行う仕事量は適切なものとなっている。自分が居ないときも他の人が自分の仕事をしてくれるので、休暇も取りやすい。
- ・ 労働災害が発生したら、本人と上司だけでなく、必ず職場全員で意見交換し再発防止策を考えるとともに、類似災害についても未然防止策を考えている。